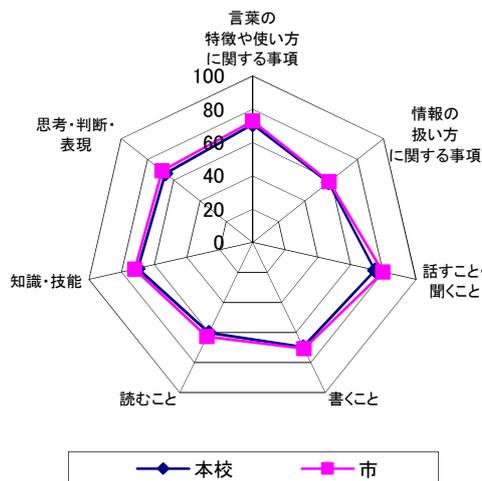


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	57.9	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	74.9	79.8	75.9
	書くこと	69.7	70.7	71.7
	読むこと	60.1	62.8	62.5
観点別	知識・技能	70.1	72.0	74.4
	思考・判断・表現	66.5	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

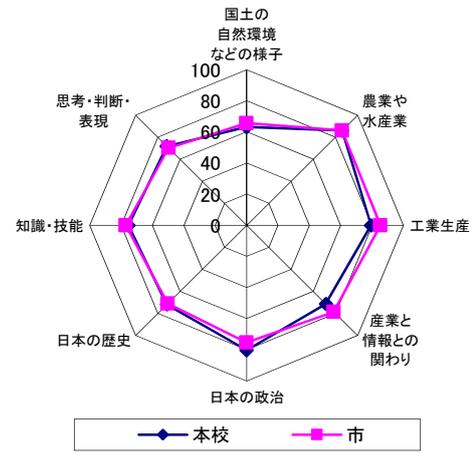
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>○漢字の読みについては、校内の平均正答率90.5%に対して、市の平均正答率は90.7%であり、ほぼ同じである。</p> <p>●漢字の書きについては、校内の平均正答率66.7%に対して、市の平均正答率は71.9%であり、5.2ポイント下回っている。</p>	<p>・漢字を正確に書けるように、宿題や朝の学習の時間を活用して、補充プリントを実施していく。</p> <p>・読書の時間を増やし、語彙力の向上を図る。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書く問題では、校内の平均正答率は57.9%であり、市の平均正答率58.5%とほぼ同じである。</p>	<p>・日々の新聞記事や掲示物をもとに、さまざまな話題を取り上げ、必要な情報を集めたり比較したりする場を意識的に設定する。</p> <p>・必要な情報を探し出すことができている、それを関連付けて文章化することができていない児童が見られるため、与えられた情報を自分の言葉で文章化する場を設ける。</p>
話すこと・聞くこと	<p>●話し合いの内容を聞き取る問題では、校内の平均正答率74.9%に対し、市の平均正答率は79.8%であり、4.9ポイント下回っている。</p> <p>●互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えをまとめる問題では、校内の平均正答率65.9%に対し、市の平均正答率は73.7%であり、7.8ポイント下回っている。</p>	<p>・教科に関わらず、発言を振り返ったり、話し合いの進め方について確認したりする場を大切にしていく。</p>
書くこと	<p>○文章を書く問題では、校内の平均正答率70.6%に対し、市の平均正答率は71.5%であり、ほぼ同じである。</p> <p>●報告する文章を書く問題では、校内の平均正答率67.9%に対し、市の平均正答率は69.2%であり、1.3ポイント下回っている。</p>	<p>・文章を書く際には、構成をしっかりと考えるよう助言し、宿題などを利用して短い意見文を書く指導を行う。</p> <p>・音読の回数を増やし、文章表現力を高めたり、接続詞を上手に使ったりできるようにする。</p>
読むこと	<p>○説明文の内容を読み取る問題では、校内の平均正答率69.8%に対し、市の平均正答率は68.5%であり、1.3ポイント上回っている。</p> <p>●物語の内容を読み取る問題では、校内の平均正答率52.8%に対し、市の平均正答率は58.5%であり、5.7ポイント下回っている。</p>	<p>・図書室を多く利用するようにし、たくさんの本に触れるようにする。</p> <p>・物語について、友達と意見交換をするような場を意図的に設け、読みを深められるようにする。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	63.2	65.7	67.0
	農業や水産業	86.1	86.1	77.5
	工業生産	79.4	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	71.4	78.6	69.6
	日本の政治	80.2	75.2	65.8
観点別	日本の歴史	71.8	71.1	69.1
	知識・技能	75.4	77.0	72.8
	思考・判断・表現	72.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

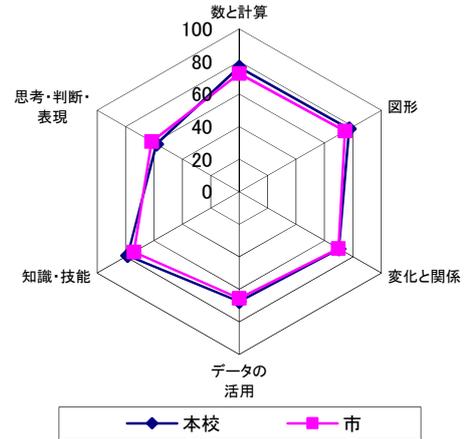
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>○日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断する問題では、校内の平均正答率は52.4%に対し、市の平均正答率は38.7%であり、13.7ポイント上回っている。</p> <p>●日本の周辺の海洋名について理解する問題では、校内の平均正答率52.4%に対して、市の平均正答率は69.8%であり、17.4ポイント下回っている。</p>	<p>・国際分野に関する学習において、世界地図や地図検索サイトなどを活用し、具体的な地名などの理解を深める。</p>
農業や水産業	<p>○食料生産に関する地図を読み取る問題では、校内の平均正答率87.3%に対し、市の平均正答率は86.6%であり、ほぼ同じである。</p> <p>●水産業の国内生産量と輸入量の変化について、資料を読み取る問題では、校内の平均正答率84.1%に対し、市の平均正答率は90.5%であり、6.4ポイント下回っている。</p>	<p>・産業別の復習プリントや復習ミニテストを実施したり、水産業に関する話題を取り上げたりして、知識の定着を図るとともに、関心を高める。</p>
工業生産	<p>○電気自動車に着目して、環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較して表現する問題では、校内の平均正答率77.8%に対し、市の平均正答率は78.4%であり、ほぼ同じである。</p> <p>●工業製品の種類について理解する問題では、校内の平均正答率81.0%に対し、市の平均正答率は92.3%であり、11.3ポイント下回っている。</p>	<p>・身近な工業製品に目を向けるような掲示物を活用したり、製品の製造地を探ったりする活動を積極的に取り入れたりして、知識の定着を図る。</p>
産業と情報との関わり	<p>●わたしたちの生活と情報に関する問題では、校内の平均正答率71.4%に対し、市の平均正答率は78.6%であり、7.2ポイント下回っている。</p>	<p>・既習の学習事項を確認できるプリントを宿題にしたり、情報技術によって変わっていく社会の様子について紹介したりすることで、思考力を育む。</p>
日本の政治	<p>○日本の政治に関する問題では、校内の平均正答率80.2%に対し、市の平均正答率は75.2%であり、5.0ポイント上回っている。</p>	<p>・朝の会などで日々のニュースを取り上げることで、得た知識をもとに考えを深めていくことができるようにする。</p>
日本の歴史	<p>○日本の歴史に関する問題では、校内の平均正答率71.8%に対し、市の平均正答率は71.1%であり、ほぼ同じである。</p>	<p>・興味をもった歴史的な出来事や人物について、自主学習などを利用してまとめをするように助言し、探究心を一層高めることができるようにする。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.5	72.6	71.6
	図形	77.4	74.4	72.0
	変化と関係	70.2	69.8	62.6
	データの活用	67.5	65.5	59.1
観点別	知識・技能	78.6	74.1	68.9
	思考・判断・表現	58.3	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

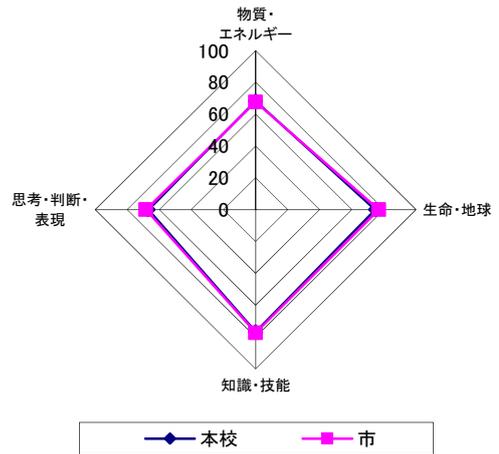
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○数と計算の領域では、校内の平均正答率76.5%に対し、市の平均正答率は72.6%であり、3.9ポイント上回っている。小数の計算、分数の計算ともに良好である。	・引き続き正確な計算ができるように、丁寧な個別指導を続ける。
図形	○図形の領域では、校内の平均正答率77.4%に対し、市の平均正答率は74.4%であり、3.0ポイント上回っている。直方体を組み合わせた形の体積を求める問題、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題、合同な三角形を作図する問題等で良好である。	・個人差が大きいので、机間指導を通して、どの児童も正確な作図ができるようにする。
変化と関係	○変化と関係の領域では、校内の平均正答率70.2%に対し、市の平均正答率は69.8%であり、ほぼ同じである。 ●同時にゴールするために、兄が走る時間と弟が走る速さから、弟が走る距離を何mにすればよいか判断し記述する問題では、校内の平均正答率33.3%に対し、市の平均正答率は42.0%であり、8.7ポイント下回っている。	・文章問題の解答などで理由を記述する力が不足しているため、言葉で説明をさせたり、記述式解答の穴埋めをしたりするような課題に挑戦させる。
データの活用	○データの活用の領域では、校内の平均正答率67.5%に対し、市の平均正答率は65.5%であり、2.0ポイント上回っている。最頻値を求める問題や集団のデータの平均値を求める問題等で良好である。 ●いろいろなグラフを読み取る問題の正答率は、校内の平均正答率55.0%に対し、市の平均正答率は58.4%であり、3.4ポイント下回っている。	・身の回りで使われているグラフや表を意識的に取り上げ、どのような効果があるのかを全員で考える場面を増やす。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	68.3	67.8	64.1
	生命・地球	74.8	76.7	78.3
観点別	知識・技能	76.8	77.4	78.3
	思考・判断・表現	66.9	68.3	66.2



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○物質・エネルギー領域では、校内の平均正答率68.3%に対し、市の平均正答率は67.8%であり、ほぼ同じである。</p> <p>○物のとけ方に関する問題では、校内の平均正答率67.2%に対し、市の平均正答率は64.5%であり、2.7ポイント上回っている。</p> <p>●ふりこのきまりに関する問題では、校内の平均正答率54.0%に対し、市の平均正答率は58.1%であり、4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・ふりこの原理について、復習プリントを準備して宿題として取りませたり、授業時間に内容の確認をしたりする。</p>
生命・地球	<p>●生命・地球領域では、校内の平均正答率74.8%に対し、市の平均正答率は76.7%であり、1.9ポイント下回っている。</p> <p>○植物のつくりとはたらきに関する問題では、本校の平均正答率84.7%に対し、市の平均正答率は83.9%であり、ほぼ同じである。</p> <p>●天気の変化に関する問題では、校内の平均正答率66.3%に対し、市の平均正答率は72.3%であり、6.0ポイント下回っている。</p>	<p>・SDGsの学習を総合的な学習や社会科にて実施し、その際に地球環境などへの理解を深めることができるように支援する。</p> <p>・日常生活と関連させながら、身近な自然への興味・関心を高めていくとともに、映像資料などを活用して、視覚的に理解できるようにする。</p>

宇都宮市立西が岡小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を高める導入を工夫する。 ・実際に計測したり調べたりする体験的な活動や課題解決的な学習を積極的に導入することで、どの児童も意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・自力で課題解決にあたる時間を確保する。 ・進んで学習に取り組めるように、状況に応じた学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」において、肯定的回答をした児童の割合は95.5%であった。 ・宇都宮市の学習と生活についてのアンケートで、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合は、6学年中4学年が市の肯定割合を上回った。
分かる授業を目指した授業力の向上と基礎・基本の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「西が岡スタイル(つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる)」を取り入れた授業を実施する。 ・どの児童にも分かりやすい授業展開を工夫する。 ・児童の実態に応じた言葉掛け、学習方法、教材など、個に応じた支援を工夫する。 ・各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方などを繰り返し指導する。 ・朝の学習の時間を効果的・計画的に活用する。 ・単元や学期ごとに復習する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」において、肯定的回答をした児童の割合は98.3%であった。 ・宇都宮市の学習や生活についてのアンケートにおいて「学校の授業が分かる」と回答した児童は、3～6年の4学年中3学年が市の肯定割合を上回った。

★市の調査結果を踏まえての次年度の方向性

・学習と生活のアンケートで「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」と回答した児童の割合は、6学年中4学年が市の肯定割合を上回った。体験的学習や課題解決的な学習を積極的に導入したり、状況に応じた学習形態を工夫したりしたことで、よい結果が出ている。次年度も継続して取り組み、学習意欲をさらに高めることができるようにする。

・学習内容定着度調査における各教科の領域別正答率を見ると、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」、社会の「日本の政治」では、市の平均正答率を2.0ポイント以上上回っている。どの児童にも分かりやすい授業展開を工夫したり、個に応じた支援を工夫したりしてきた成果であると考えられる。しかし、他教科や他領域では、市の平均正答率より低いものが目立ち、基礎的な学習内容が身に付いていない児童も多く見られる。引き続き、基礎的な学習内容や話の聞き方などを繰り返し指導するとともに、一人一人に応じた分かりやすい丁寧な指導を実践していくことで、学力向上を図る。

・学習と生活についてのアンケートで「普段、学校の授業以外に一日どれくらい学習しているか」において、「ほとんどしない」「10分くらい」と回答している児童の割合は、平日、休日ともに市の平均より高い学年が多い。自主的に家庭学習に取り組む児童を育成することが本校の課題である。リレー自主学習や友達の自主学習ノートを参考にして、工夫して自主学習に取り組む児童が増えてきた。次年度も本年度の取組を継続し、保護者と連携して家庭学習の充実を図る。